

### 3. 両生類

#### (1) 調査概要

##### 1) 調査方法

これまでの「希少野生動植物の実情と保護方策」(1992～1996)作成のための調査およびRDB1998作成のための補足調査で得た結果を基に、ハビタットを選定した。また、調査員による1991年以前の調査結果を基にハビタット選定域とその周辺におけるサンショウウオ類の動態を確認して保全対策等の検討を行い、それに基づいてハビタットの範囲を検討した。調査能力に限界があり定量的調査は困難であった。過去のRL2004、RL2014の補足調査、RDB2009と本書RDB2019作成のための補足調査で得た結果をもとに検討した。選定した地域とその周辺部で個体の生息状況を繁殖期および幼生期においてその数や生息範囲を継続的に調査した。

##### 2) 調査結果の概要

選定した地域においては樹齢が50年を超えるような夏緑樹林が広がっており、林内の多くの沢に多数のサンショウウオの幼生が確認された。また、ベッコウサンショウウオやコガタブチサンショウウオの成体や産卵も毎年のように多数が確認された。しかし、森林伐採や植林に用いる林道や作業道の開設に伴い、幼生の生息が確認できなくなった沢が各所で見られるようになった。

ハビタットに選定した区域では自然林の状態が残されており、1991年以前の調査結果と比較しても安定した生息状況が継続していることが認められた。しかし、選定した区域の周辺においては、かつて良好な生息状況が認められていたが、道路開設地点より下流域の沢では幼生の生息が途絶えたことが確認された。生息範囲を調査した結果では、サンショウウオ幼生の生息の確認や成体が確認されている沢に隣接する沢であっても、針葉樹が植林された地域では生息が確認されない例がほとんどであった。特に、ベッコウサンショウウオは針葉樹の植林地内の沢とその周辺では確認された例がない。

##### 3) 今後の課題

当該ハビタット地域は県有林が広い範囲を占めているが、国有林や民有林を含めたハビタット域内における森林開発や道路開設を回避できるような保全措置が求められる。回避が困難な場合でも、伐採の仕方などにおける実効性ある保全措置が講じられる必要がある。尾根筋に残される自然植生を沢筋に残すことができるような発想の転換を図ることで、保全の効果は飛躍的に高められると考える。道路開設に当たっては十分な検討・協議を行うことによって繁殖域の沢を破壊する行為を解消することができる。また、奥山の自然林における人為の回避は望ましいことであるが、状況を確認・理解した上での開発等が行われることで影響を回避するような施策を講じる必要がある。特に作業道の影響は大きく、ハビタットの維持については最も警戒すべき要件と考える。

#### (2) ハビタットの解説

2ヶ所について、以下で解説する。

## 1 高塚山

球磨郡五木村下梶原・球磨郡水上村江代

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

### 【保護対象種】

ベッコウサンショウウオ(VU)

### 【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

### 【概要】

球磨郡五木村と球磨郡水上村に境をなす山塊に夏緑樹林が広がっている。九州中央山地国定公園の一部に含まれており、北側は植物群落保護林となっている。また、東側は南斜面は球磨川水源自然森林公園の一部で夏緑樹林が広がっている。一帯の樹林内はベッコウサンショウウオの良好な生息域になっている。他にも、コガタブチサンショウウオ、タゴガエルなどの両生類だけでなく、多くの希少野生動植物が生息・生育する。

### 【現状】

五木村に属する西側では伐採と植林が進み、夏緑樹林の消失とともに生息と繁殖が認められなくなった沢が増えている。林道開設による土砂の流入により繁殖地が標高の高い沢へ限定される傾向にある。林道開設により夏緑樹林の伐採が進み、シカの食害による樹林内の乾燥が進めば、個体数の減少や生息の消滅が考えられる。

## 2 山犬切

球磨郡水上村江代・八代市泉町久連子

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

### 【保護対象種】

ベッコウサンショウウオ(VU)

### 【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

### 【概要】

九州中央山地国定公園の一部に含まれ、球磨郡水上村と八代市泉町にまたがっている。南斜面は球磨川水源自然森林公園となっている。ベッコウサンショウウオの繁殖域はヤマメの生息域よりも上流の水源にかけての溪流で、沢周辺の常緑樹林内にコガタブチサンショウウオと同所的に生息している。ベッコウサンショウウオの他にも多くの希少野生動植物が生息・生育する。これまでに大規模な伐採などを受けたことのない広大な夏緑樹林で構成され、森林生物遺伝資源保存林を含んでいる。

### 【現状】

林道開設に伴う森林伐採により、南側の水上村梅の木鶴一帯での生息が確認されなくなっている。繁殖域となっていた溪流でも林道開設による土砂等の流入による河床の埋没により繁殖が認められなくなっている。林道より上流の夏緑樹林内の沢においては繁殖が確認されるが、伐採や林道開設などの人為的侵攻のみでなく、シカの食害による林内の乾燥も問題である。

### (3) 文献

1. 熊本県希少野生動植物検討委員会(1993) 人吉球磨地域における希少野生動植物の実情と保護方策. 熊本県環境保全課.
2. 熊本県希少野生動植物検討委員会(1994a) 天草地域における希少野生動植物の実情と保護方策. 熊本県環境保全課.
3. 熊本県希少野生動植物検討委員会(1994b) 芦北・水俣地域における希少野生動植物の実情と保護方策. 熊本県環境保全課.
4. 熊本県希少野生動植物検討委員会(1995) 阿蘇・県北における希少野生動植物の実情と保護方策. 熊本県環境保全課.
5. 熊本県希少野生動植物検討委員会(1996) 県央地域における希少野生動植物の実情と保護方策. 熊本県環境保全課.
6. 熊本県希少野生動植物検討委員会(1998) 熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと—. 熊本県自然保護課.
7. 熊本県希少野生動植物検討委員会(2009) 熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと—. 熊本県自然保護課.